

南北国際輸送回廊について

モスクワ(ロシア)・ムンバイ(インド)間をつなぐ南北国際輸送回廊整備に関する政府間協定が、2005 年ロシア、インド及びイランの間で締結されました。現在では上記 3 か国を含む、13 か国が同協定に参加しています。

現在、インド・ロシア間及びインド・北ヨーロッパ及び西ヨーロッパ間の海上輸送には 6 週間程度を要しますが、南北国際輸送回廊が整備されることにより、3 週間程度に短縮されることが想定されています。

1. アゼルバイジャンは、2005 年に南北国際輸送回廊整備に関する政府間協定に参加しました。その後、アゼルバイジャン政府により、南北国際輸送回廊の一部をなすアゼルバイジャン・イラン国境のアスタラチャイ川にかかる鉄道用橋梁、アスタラ(アゼルバイジャン)・アスタラ(イラン)間及びアスタラチャイ川からイラン国内の貨物ターミナルまでの鉄道整備が行われました。
2. 南北国際輸送回廊は、鉄道、道路、海上輸送で繋がれる複合輸送網ですが、イラン北西部でアスタラ・ラシュット間の鉄道整備が完了すれば、ロシアからアゼルバイジャンを通過し、ペルシャ湾に位置するバンダレ・アッバース港(イラン)まで鉄道で結ばれることとなります。イランの道路・都市開発大臣の発言に基づく 2020 年 9 月の当国での報道によれば、2024 年 9 月までにアスタラ・ラシュット間の鉄道網敷設工事の完了が予定されているようです。
3. また、現在イランにはバンダレ・アッバース港の他、イラン南東部に位置するチャーバハール港という港があります。同港は、主に旅客輸送を担うシャヒード・カラントリ港と主に貨物輸送を担うシャヒード・ベヘシティ港の 2 港で構成されており、開発運営会社であるインド港湾グローバル・チャーバハール社がシャヒード・ベヘシティ港の開発を進めています。同開発が完了すると積貨重量が 12 万トンまでの超大型船舶が入港可能になります。加えて、2021 年、イラン政府はチャーバハール港・ザハダン(イラン南東部、パキスタン及びアフガニスタンの国境部に位置する)間の鉄道整備に対して 3 億ドルの予算配分を行いました。アスタラ・ラシュット間と併せて、同区間の鉄道整備も完了すればバクーからチャーバハール港へも鉄道でつながることとなります。



注:地図には本稿で言及した都市、施設及び鉄道網のみ記載。

(以上)